

2026年(令和8年)5月30日 土曜日

綿棒を使ってチョウと触れ合う園児と生徒＝神出学園



チョウを通して 保育園児と交流

神出学園の生徒と一緒に蜜やりを体験

西 区

保育園児がチョウと触れ合う「ちょうちょまつり」が、西区神出町小東野にある全寮制フリースクール「兵庫県立神出学園」のピオトープであった。生徒が紙芝居で成虫になるまでの過程を説明し、園児と一緒に蜜やりに挑戦した。

神出学園は、中学卒業後から23歳未満までを受け入れている。現在は生徒40人が在籍し、農業や動物の飼育など多彩なプログラムを体験している。

近くにある神出保育園との交流会は10年ほど前から続いており、生徒が主体的に企画を考える。長田区五位ノ池町に住む学園の元職員で、環境省環境カウンセラーの橋本敏明さん(74)からアドバイスを受けながら準備を進めた。

26日の交流会には、生徒

の有志16人が参加し、卵から成虫になるまでの成長過程を実際の写真を用いた紙芝居で解説。「タマゴの殻を食い破って小さな幼虫が出てきました」「きれいなアゲハチョウになったよ」などと分かりやすい表現で紹介した。

ジャコウアゲハやモンシロチョウなど14種類約70匹が舞うテントも設けられ、園児が蜜やりを体験した。生徒からコツを教えてもらい、スポーツドリンクで湿らせた綿棒をチョウの頭部に近づけ、吸い付く様子を観察した。

年長の前島太陽ちゃん(5)は「チョウチョを捕まえてうれしかった」と笑顔。学園の女子生徒(18)は「園児の目線や手先を意識しながらサポートした。笑顔に元気をもらえた」と話した。

(池田大介)